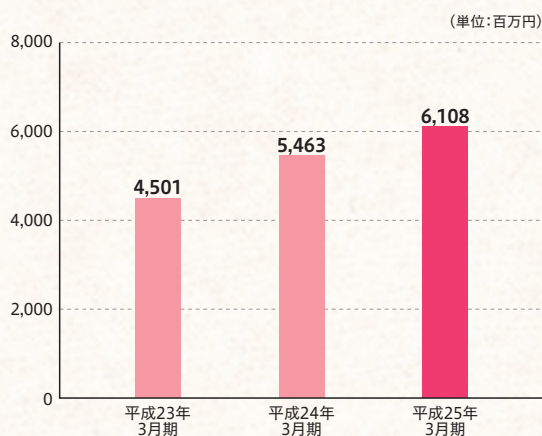


業績ハイライト(単体)

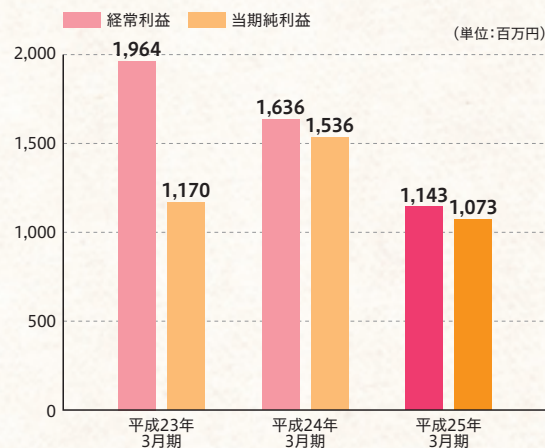
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したものの、物件費の減少等により、前年同期比6億44百万円増加の61億8百万円となりました。



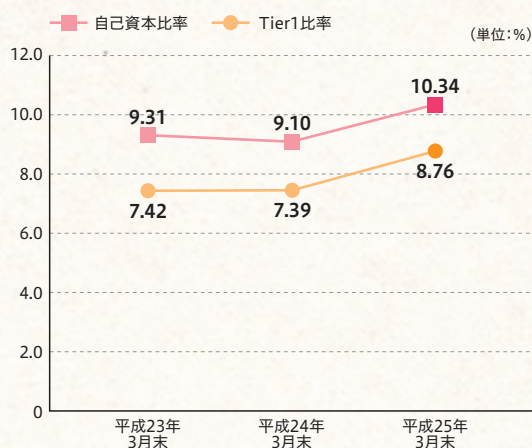
経常利益・当期純利益の状況

経常利益及び当期純利益は、事業再生専門子会社による積極的な企業支援に取り組み、子会社による個別貸倒引当金を前倒しで計上したため、それぞれ前年同期比4億92百万円減少の11億43百万円、前年同期比4億62百万円減少の10億73百万円となりました。



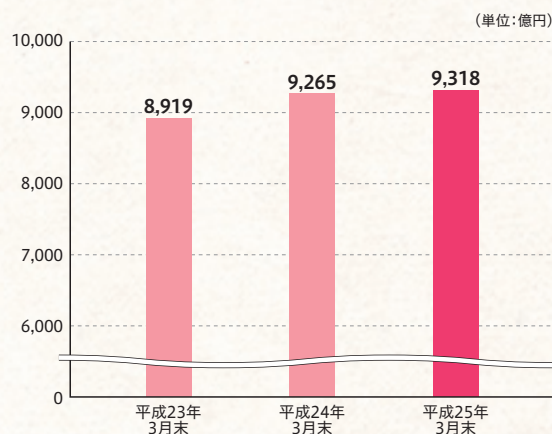
自己資本比率の状況

自己資本比率は、24年12月に震災特例の金融機能強化法に基づく資本増強を実施したことから、前年同期比1.24ポイント上昇の10.34%となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、前年同期比52億73百万円増加の9,318億67百万円となりました。(事業再生専門子会社に移管しました貸出債権125億59百万円を考慮しますと、実質178億32百万円の増加となりました。)

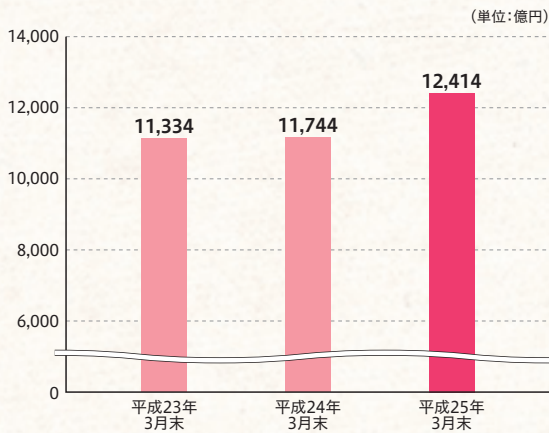


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

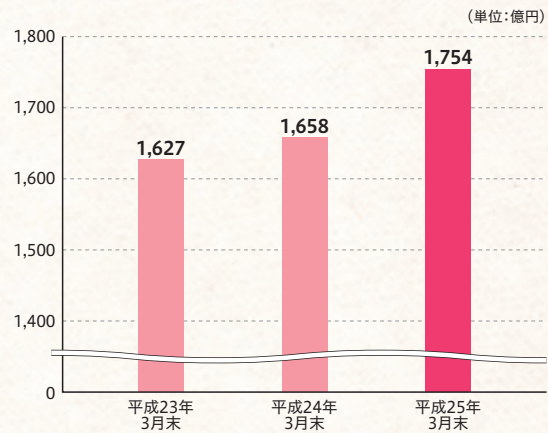
預金(譲渡性預金含む)の状況

預金残高は、個人預金・法人預金・公金預金の全てが増加したことにより、前年同期比669億19百万円増加の1兆2,414億10百万円となりました。



預かり資産の状況

預かり資産残高は、前年同期比95億11百万円増加の1,754億8百万円となりました。

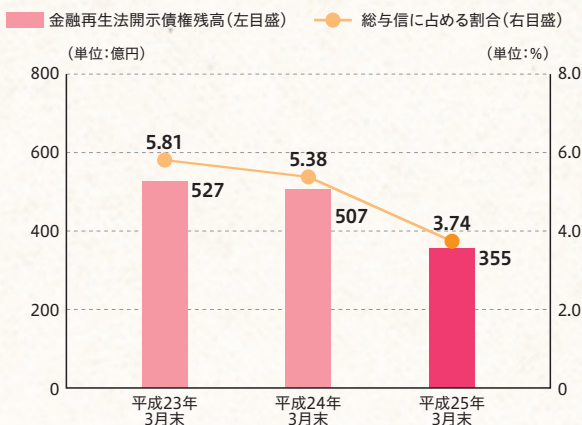


金融再生法開示債権の状況

平成25年3月末の金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成24年5月に当行100%子会社である「きらやかターンアラウンド・パートナーズ(株)」へ貸出債権125億59百万円を移管したこと等から、前年同期比151億35百万円減少し、355億99百万円となりました。

今後も引き続き、お取引企業に対する財務内容改善等ノウハウの提供に関する経営支援、経営指導をこれまで以上に強化し、資産の健全化に努めてまいります。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



当行は、平成23年2月、取引先企業再生支援のためのコンサルティング機能の発揮及び強化を目指し、完全子会社となるきらやかターンアラウンド・パートナーズ株式会社を設立、平成24年5月、当行が所管する貸出債権125億59百万円を会社分割により承継いたしました。平成25年3月末現在における同社との連結開示債権残高は404億42百万円で開示債権比率は4.23%となります。

なお、同社は、平成24年3月、日本政策投資銀行と資本及び業務提携に関する協定書を締結し、企業再生支援機能を強化するとともに人材の育成を図ることによって地域経済の活性化を目指しております。

- 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。